

免疫学セミナーのお知らせ

(慶應医学会例会)

9月16日(金曜日) 17:00-18:00 東校舎1F会議室

タイトル

CD4CD8 $\alpha\alpha$ 陽性細胞は制御性T細胞と相補的に腸管上皮のホメオスタシスを保つ役割を果たす

[\(Tissue adaptation of regulatory and intraepithelial CD4⁺ T cells controls gut inflammation.\)](#)

講演者

筋野智久

The Rockefeller University Laboratory of Mucosal Immunology, Post-Doctoral Associate

慶応大学消化器内科 特任助教

要旨

腸管は外界と体内を隔ており、腸内細菌に由来する抗原や食物抗原をはじめとする多くの抗原につねにさらされる。腸管は抗原が体内に侵入するのをふせぐと同時に、過剰な免疫反応を起こすことなく栄養素などを取り込む必要があり、腸管免疫系はその絶妙なバランスにより保たれる。腸管免疫系において、T細胞は腸管上皮および粘膜固有層に存在する。CD4CD8 $\alpha\alpha$ T細胞はおもに腸管上皮に存在するユニークな細胞である。制御性T細胞とCD4CD8 $\alpha\alpha$ T細胞はともに、TGF β およびレチノイン酸を分化に必要とするという共通点がある。制御性T細胞は転写因子ThPOKを発現し粘膜固有層に多く存在するのに対し、CD4CD8 $\alpha\alpha$ T細胞はThPOKを発現せず腸管上皮に多く存在する。この研究においては、CD4陽性T細胞はThPOKの発現に依存して腸管上皮および粘膜固有層に存在し、さらに、制御性T細胞とCD4CD8 $\alpha\alpha$ T細胞は腸管上皮における炎症の抑制の役割を相補的に担い、一部のCD4CD8 $\alpha\alpha$ T細胞は制御性T細胞より分化することが示された。

参考論文

Tomohisa Sujino, Daniel Mucida et al. Tissue adaptation of regulatory and intraepithelial CD4⁺ T cells controls gut inflammation.

Science, Jun 24;352(6293):1581-6 DOI: 10.1126/science.aaf3892

セミナーは日本語の予定

照会先

吉村昭彦 (61221) yoshimura@a6.keio.jp